

朝の礼拝

聖書 コヘレトの言葉 3章1-8節 (旧約聖書 1036 頁)

何事にも時があり
天の下の出来事にはすべて定められた時がある。
生まれる時、死ぬ時
植える時、植えたものを抜く時
殺す時、癒す時
破壊する時、建てる時
泣く時、笑う時
嘆く時、踊る時
石を放つ時、石を集める時
抱擁の時、抱擁を遠ざける時
求める時、失う時
保つ時、放つ時
裂く時、縫う時
黙する時、語る時
愛する時、憎む時
戦いの時、平和の時。

導き

私は東京の都心で生まれ育ちました。そんな私が自然の中で少し長く生活した時があります。大学時代、毎年夏休みに琵琶湖の湖畔にあるキャンプ場でキーパーをしていた時のことです。キャンプ場には電気、ガス、水道がなく、ランプ、薪、井戸水でした。スマホ、パソコンはもちろん、テレビ、電話もありませんでした。あるのはラジオがついたカセットテープレコーダーだけでした。

毎日、炎天下で生ゴミを松葉と一緒に燃やし、上半身裸の短パン一つで、大きな木槌を振り下ろし空き缶を潰していました。そうしている内に、今日が何日で何曜日かもわからなくなり、世の中の事情はやってくるキャンパーに教えてもらいました。夜は、竹と石で手作りした銚子（も

り)で魚やナマズを捕ったり、ヘビやマムシと格闘したり、キャビンの天井裏の蜂の巣を取ったり、突然のスクール、台風の直撃に遭ったりして、都会育ちの私にとっては、まさにカルチャーショックでした。

やがて、数年後に、留学したサンフランシスコのベイエリアにあるパークリーでは、到着した7月3日から10月21日まで約4ヶ月半、一滴も雨が降らない生活を体験しました。毎日、毎日、カリフォルニアの青い空を飽きるほど眺めては、日本の雨が恋しくなりました。

先ほどのお読みしたコヘレトの言葉には、人生には「何事にも時があり」と書かれています。私は人生のある時は「今は、良い時」、ある時は「今は、悪い時」と思ったことが幾度もありました。でも、今、ふり返ってみれば、全く逆の時だったかもしれないということもあります。都会で生まれ、都会育ちだったから何もかも良かったわけではなく、生まれと育ちとは全く違う環境であった琵琶湖の自然の中で驚き、恐い思いをし、失敗して生活したことが、今、ふり返って思えば恵みであったし、導きだったと信じられるのです。

これまで男子校で18年間過ごしてきて、どうして、今、女子校なのだろうと思ったことがあります。ただ、ここまでお話ししてきたように、これまでとは違う、逆の環境の中で過ごす時が与えられるのには、神様が与えて下さっている恵みがあり、導きがあると、今は信じられるのです。すべて定められた時として、今を喜び、祈り、感謝を覚えて過ごせることは幸いです。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたは、コヘレトの言葉を通して「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」と示して下さいました。どうかあなたに信頼し、あなたの慈愛を悟り、喜びと祈り、そして感謝の時を過ごさせて下さい。今日一日も一切をあなたに委ね、御心に沿った道を歩ませて下さい。主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。アーメン